

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	豊かな品性を持ち、勤労を尊び、情操と創造性に富み次世代を担う、調和のとれた工業人の育成を目指す。 (1)品性の陶冶に努め、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。 (2)個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う。 (3)真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。
(2) 現状と課題	・ 基本的生活習慣が確立されている生徒の割合が高い一方で、望ましい生活習慣が未形成である生徒が年々増えつつある。 ・ ものづくり教育や各種資格取得等に積極的に取り組み、成果を上げている。 ・ 基礎学力の定着や専門的な基礎技術・技能の定着と向上、生徒個々の進路実現等に向けて、組織的な指導体制の強化を進めている。 ・ 進路活動の状況は良好であり、早期に進路目標を達成している生徒が多い。
(3) 重点目標	1 多様化する生徒一人一人の能力・適応に応じた指導と学習習慣の定着に努める。(学習指導の充実)
	2 生徒自らが自己実現を図っていくための力の育成を図り、健全な学校生活を確立する。(生徒指導の充実)
	3 進路目標の実現に向けて生徒・教職員・保護者が共に早期から取り組む、計画的・組織的・継続的な進路指導を推進する。(進路指導の計画的・組織的な指導の推進)
	4 教職員のものづくり技術の向上を推進するとともに、工業学習への生徒の意欲が向上する指導に努める。(ものづくり教育の充実)
(4) 結果の公表	学校関係者評価(保護者アンケート等)の結果とともに、ホームページへ掲載して公表する。

学校整理番号	34
学校名	青森県立弘前工業高等学校
全日制の課程	校舎

自己評価実施日	令和7年1月28日(火):学校総括評価会議
学校関係者評価実施日	令和7年1月29日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員4名 (保護者、地域住民、大学等の教育関係者、学校後援会役員等) 学校関係者13名 (校長、教頭、事務長、関係分掌主任等)

自己評価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導の充実 (教務部) (教務部・研修係) (図書・視聴覚部) (IT推進部)	① 多様化する生徒の能力・適応に応じた指導と学習習慣の定着 (ア)目標の明確化と評価 (イ)基礎・基本に即した指導 (ウ)ICT活用によるわかる授業・力のつく授業 (エ)主体的・体験的学習	① 多様化する生徒の能力・適応に対応するため、教材の精選や授業改善、ICT活用等を推進した。評価と指導の一体化のために、新入生にシラバスを配付して到達目標を明確化するとともに、定期考査の事前・事後の講習会等により生徒の学習意欲を高めることができた。また、学びの基礎診断については分析会を実施している。	A	生徒が意欲を持って学習する様子が伝わってくる。教育は生徒にやりたいことを見つけてさせる大切な機会でもある。工業高校では学力を身に付けさせただけで終わるのではなく、専門性を高めさせながら自分の好きなものや生活を楽しむものを見つけてさせている。日本のものづくりの基本が工業高校にあると感じた。とても良い教育をされており素晴らしい。先生方の指導も大変だったろうとご苦労を察する。	・ 生徒の実態を踏まえた教材の精選と授業改善により、基礎的知識・技能の定着、その活用力を育む指導、学習評価の改善等について継続して取り組む。 ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業と学習意欲を高める工夫を継続する。 ・ 円滑な学校運営のための分掌間の連絡調整に努めるとともに、ICT機器の更なる活用及び新校務支援システムによる業務の定着と効率化を進める。
		② 円滑な学校運営のための分掌間の連絡調整に努めるとともに、業務の効率化を図る。	② 校務支援システム(成績処理システム)の安定した稼働に向けて継続的に取り組み、業務の効率化に取り組んだ。校内ポータルサイトによる連絡・確認事項等の配信、職員朝会実施日の見直し等により、職務の効率化を図ることができた。			
2	生徒指導の充実 (生徒指導部) (特別活動部) (保健部) (渉外部)	① 生徒自身が自己実現を図る力の育成 (ア)生き方・あり方を考える指導 (イ)基本的生活習慣・規範意識 (ウ)いじめ防止 (エ)生徒理解・教育相談	生徒指導部と各分掌、各教員が連携して基本的生活習慣と規範意識の定着に向けて指導した。各事案については、教員間の情報共有と連携強化により丁寧な対応ができた。交通安全教室や自転車点検、街頭指導等を実施して意識の啓発を図り、事故防止や危険回避のための能力を高めた。	B	「人前で話す」ことや「コミュニケーションを図る」ことについて、継続した指導をお願いしたい。地域への情報発信や連携活動による成果は直ちに顕れるものではない。ただし、ものづくりによる地域貢献を継続し、工業高校に入りたい子ども達が増えてくれることを願っている。同窓会では年齢の偏りが大きくなっており、若いOBやOGの活動を取り入れていきたい。	集団活動や体験的な活動を通し社会性を身に付けさせるために、以下の事項について指導を継続する。 ・ 基本的生活習慣を確立させる。 ・ 集団生活に必要な規範意識やマナーの向上を図る。 ・ 事故防止のための指導を徹底する。 ・ 生徒会諸行事の活性化を目指す。 ・ ホームルーム活動の活性化を図る。 ・ 部活動推進と強化に努める。
		② 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。	② 生徒会活動や学校行事等の集団活動等を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図った。適切な助言指導により生徒の自主的・実践的活動を促し、各活動の活性化と生徒の発達を心がけた。			
3	進路指導の計画的・組織的な指導の推進 (進路指導部)	進路目標の実現に向けて進路意識の早期啓発を図り、計画的・組織的・継続的な進路指導を行う。	早期の情報提供や進路希望調査、産学官連携による進路指導を継続し、希望進路の実現に向けて意識の啓発を図った。地元企業理解を目的とした企業面談や企業見学、インターンシップ等を実施した。国公立大学進学希望者に対する講習会を実施した。	B	民間企業で若い社員を育成し統括する立場として、コミュニケーションスキルの向上と就職試験に向けた面接対策指導を今後も継続することを望む。ある新聞記事では、学生の就活において、選択職種は「事務職が圧倒的に多い」とあった。ものづくりを指導する立場として寂しい限りであるが、工業高校と大学との連携により、製造業を盛り上げていきたい。	生徒が将来の生き方への関心を深め、自分の能力・適性等を踏まえて知見を広め、将来への展望を持って進路の選択・計画をするための指導を継続する。 ・ 職業観・勤労観等のキャリア教育の継続。 ・ 多様化する大学入試に対応できる環境の構築。 ・ 保護者との協働・連携・信頼の構築。 ・ 産学官連携による地元定着のための事業の継続。
		(ア)キャリア教育・勤労観・職業観 (イ)進路情報の収集・活用 (ウ)面談をきっかけとした早期指導 (エ)企業見学や外部人材によるガイダンス	2学年を対象に、4者面談(生徒・保護者・担任・科主任)を実施。学校公開日に保護者対象の進路説明会、学校行事日等での来校保護者に進路指導室を開放し個別説明会を実施した。2学期末には進路通信を発行した。			
4	ものづくり教育の充実 (工業科総括) (渉外部) (教務部・研修係)	① 職員のものづくり技術の向上・生徒の意欲向上 (ア)校内外研修 (イ)外部人材の活用 (ウ)コンテスト等の技術教育強化 (エ)課題研究・成果発表の充実	① 国際イノベーションコンテスト国内大会入賞、若年者ものづくり競技大会入賞、ものづくりコンテスト県大会入賞など、実践的な活動を通して技術の向上と生徒の専門的資質の向上を図った。資格取得では、生徒が身に付ける力を明確にして系統的な指導を行い、実際の進路に結びつけている。	A	生徒の課題研究発表の様子を拝見し、工業高校で行われているものづくりを通して、未来のトップクリエイターが育成されるのではないかと期待している。ものづくりを通して生徒自らが「何かをやりたい」と思い「自分から進んで行く」ことや、これらを「のびのびとやらせること」が大事であると改めて感じた。先生方の指導の継続と指導力の向上を今後も期待す	工業教育による人材育成を実践し継続するため、以下の取り組みを継続する。 ・ 基礎技術・技能の定着。職業観の育成。安全作業の徹底。 ・ 資格取得の奨励と、ものづくり教育の充実。 ・ 地域・産業界等との連携強化を進める。 ・ 指導者の技術・技能の向上、自己研鑽に努める。 ・ 教職員の指導力向上に向けた校外研修を推進する。
		② 産業界と連携し、工業技術・技能の定着や資格取得の推奨、専門的進路実現を目指す。	②インターンシップは一部学科のみの実施となったが、産業界や企業・地域人材を招いた講話、上級学校との連携等により、専門教育の充実にも努めた。			

(11) 総括	<p>1-1 基礎的知識・技能の定着と活用力を育む指導や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組んだ。円滑な学校運営のための分掌間の連絡調整に努めるとともに、ICTを活用した授業・業務の効率化や校務支援システム「賢者」の運用に向けてIT推進部と連携して業務を進めた。(教務部)</p> <p>1-2 読書体験の場を提供し、教科や分掌と連携して学習情報センターの機能を担った。弘前市民会館でミュージカルに係る芸術鑑賞を行い好評を得た。視聴覚機器・機材の整備・点検を行い効果的な運用を図った。(図書・視聴覚部)</p> <p>2-1 職員の連携や情報共有により、基本的生活習慣の確立や規範意識・マナーの向上等を図り、トラブルやいじめなどの早期発見と問題解決にあたった。一方で例年より特別指導案件が多く、生徒指導の2軸3類4層による構造について確認と改善を進めながら、指導の継続が求められている。また、自転車の乗り方について例年と同様に外部からの苦情が寄せられており、乗車マナー向上のための指導を継続していかなければならない。(生徒指導)</p> <p>2-2 教師と生徒間の信頼関係づくりや生徒会諸行事・ホームルーム活動の活性化、部活動の推進・強化にあたった。「青森と台湾の高校生による協働学習推進プログラム」により国際交流の機会を得ることができた。(特別活動部)</p> <p>2-3 保健管理や保健教育、教育相談、教育環境の整備等を重点的に行った。不登校や登校渋りの生徒に対する早期介入により対策することができたが、特性を有する生徒への対応についてはSCやいじめ防止専門員をはじめとする外部人材の活用が必要である。(保健部)</p> <p>2-4 PTA活動や後援会、同窓会の事業を通して教育環境の整備と活性化に務めた。今後も時代に即した事業展開が必要なため、各団体役員と連携を図り、検討を重ねていく。(渉外部)</p> <p>3-1 生徒が主体的に進路を考え早期に目標を確立し希望進路を実現させるため、継続的にガイダンスを実施して自己・職業理解、勤労観・職業観の育成を図った。職員間の情報共有や連携強化を進めながら、保護者集会、中学生体験入学、公開授業日等をきっかけとして進路情報を発信した。(進路指導)</p> <p>3-2 進路通信を発行し、進路情報の発信・提供・共有に努めている。今後も進路活動の「見える化」と「ICT化」を進め、組織的な進路指導の充実を図る。(進路指導)</p> <p>4-1 品性豊かで情操と創造性に富んだ、調和のとれた工業人の育成並びに人格形成を進めた。ものづくり教育や資格取得をはじめとする工業教育を行った。あおり創造学をはじめとして今後も地域との連携を継続する。(工業科総括)</p> <p>4-2 教職員の授業力を高める研修の充実、教科・学科における教職員相互の研修体制の活性化、教職員の技術・技能の向上を図る校外研修の充実を目標として業務を進めた。校内研修の内容や実施時期・実施方法、回数については、さらに検討していく必要がある。(教務部・研修)</p>
---------	---